

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1572号 2000年12月25日(月)

今回の号が今年最後となります。ご挨拶だけです。

2000年、そして20世紀もあと少しになりました。ちょうど今世紀の中頃に生まれた人間としては、物心ついたのはその後半でしかないので全部を自分の体験で語れないのですが、恐らく200万年とも言われる人類の歴史の中で、20世紀は一番めまぐるしく変わった世紀ではないでしょうか。最後の2000年もその例に漏れなかった。

一部のエコノミストの予想は見事に外れ、Y2Kは私の予想通りさしたる大きな問題もなく過ぎましたが、それからの市場、特に株式市場は疾風怒濤だった。NASDAQなどは5000まで駆け上ったものの、年の瀬には半値以下に落ち込んだ。日本の株も多難な年でしたが、これは日本経済の実態の投影だと言える。

市場そのものも大きく変化しました。「マシン」の浸透です。今や東京外国為替市場でも、出来高の圧倒的部分はマシンを経由して出来ている。もはや昔ながらの市場ではないのです。人の動きも激しかった。そしてこれからは一段とネットベースの為替取引が増加する。市場の形は今後とも変貌するでしょう。株式市場でも、ネット取引の伸張が著しい。

為替は比較的静かでしたが、株式市場などを見ていると、「市場の賢さ」とは何かと問いたくなる場面もありました。今年ハイテク株で「enjoy the party but dance close to the door」の原則を守れた投資家(個人、機関)は少なかったのでしょうか。今更ながらに、「市場の知恵」を疑っている人もいるかもしれない。

しかしいつも思うのですが、市場が予想できないものであり、そして市場が人間によって時として愚行が展開される場所であろうとも、これを軽視することは無謀だし、許されないということです。市場が一番優れている点は、間違いを改めるのに躊躇しないということだと思う。政府や企業だったら間違いだと分かってメンツの問題やそれに関する組織の問題などがあって変化を躊躇する。しかし、市場は間違いを悟った瞬間から一気に「より正しい方向」への歩みを開始する。

それこそ、市場の最大のメリットなのです。だから政府の政策よりも、市場のシグナルの方が最後は正しいと考えるべきでしょう。人間も政府も過ちを犯し、市場も同様です。しかし、間違いを直すのに逡巡しない市場の知恵は生かさねばならない。矯正装置としての市場というものを持たなかった共産主義は、見事につんのめった。

来年も市場を大切に考え、そのメッセージを聞きながら、そして伝えながら仕事が出来たらと思います。多分、いろいろなメッセージを出してきますよ、マーケットは。それを

聞き逃すことなく行きたい。

読者の皆様には、良い年未年始、2001年、そして21世紀が来ますことをお祈りします。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》